

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2170102376		
法人名	社会福祉法人 千代田会		
事業所名	ウエルビュー明郷		
所在地	岐阜県岐阜市真砂町1丁目20番地の2		
自己評価作成日	平成23年6月27日	評価結果市町村受理日	平成23年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai.gosi.p/informationPublic.do?JCD=2170102376&SCD=320&PCD=2170102376
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成23年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・決められた行事だけでなく、気候がよければ、外気浴やドライブ、外食、外注、喫茶店へ行くなどの機会を多く取り入れています。

・施設の立地条件が、住宅地、商業地に隣接している為、地域との繋がりを持ち易い。

・ケアハウスと併設により、防災設備、夜間の体制が充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義を踏まえ、常に地域との信頼にもとづく理念の実践に全員で取り組んでいる。フリーマーケット開催、地域祭事への参加、町内掃除当番等、地域との付き合いを大切にしている。代表者や管理者は職員研修の重要性を理解しており、費用の負担や職員の負担軽減のための就業時間内実施など積極的に取り組んでいる。また、パートを含む全職員がAEDの講習を受けるなど救命救急時の対応ができるようにしている。水害に対して、確実に迅速に連携が取れる方法を市町村と話し合っている。職員は、日常の細かな事は自分で裁量し決定できる為、臨機応変に個別の介護が実践できており、人員体制等運営にも反映されている。ボランティアの協力を得て毎月1回、全員で福祉バスを利用してドライブに出かける等、外出の機会が多くある。入浴は、家庭での習慣により近い状況を提供する為、担当の職員配置を工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ事業所の運営方針の中から、「心温まるケア」として、やさしい声かけ、話を聞く等実践できているか、会議の場で確認している。	理念は、地域密着型を意識したものであり、全職員で年に一度検証して見直しをしている。管理者は地域との関係作り、職員は日常の介護を通して、常に、理念の実践が出来るよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりや催し物への参加をしたり、散歩等の際は日常的に挨拶を交わしている。	神社等の祭、地域の文化祭や会合への参加、事業所主催のフリーマーケット等開催をしている。地域の一員としての役割として、資源分別ごみ当番、清掃活動等、幅広く、一緒に活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方々の相談事に傾聴し、手助け出来るがあれば随時声をかけていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の開催にて委員をそれぞれ月毎に割り振り、地域の事や防災について等話してもらえるよう計画している。	家族等が参加しやすい日曜日を設定し、地域の独居高齢者の相談、側溝の段差解消等、意見を聞き、運営に活かしている。会議内容を町内の役員に連絡して、市へ街灯の設置等を要望し、実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	所在市町村との連携のため、情報を確認したり、協議会での指導や情報を取り入れている。	市町村担当者とは、外部評価結果や事業所情報、空室情報等を報告している。その他、補助金の申請、懸念する水害等の避難が速やかで適切に連携出来る体制について、話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指し、玄関の施錠は控える等、拘束は行わないことを原則としている。ご家族にて希望がある場合、同意書に一筆記入してもらっている。	身体拘束と伴う虐待の外部研修に参加して、職員に周知をしている。玄関の施錠をしないケアとして、外出希望等のある利用者には、特に、外出機会を多くしている。また、日常の職員の言動についても拘束に繋がらないか話し合い、会議の中で研修を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護の現場で、広義の意味の暴言・暴力が無いかを会議の場で話し合う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用出来るよう支援している	将来的にご利用されても良い様に学ぶ機会を持つ必要もある。外部の研修会に参加し、内部研修会に取り組みたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対しての考え方や取り組み、事業所の対応の可能な範囲について説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見箱の設置にとめない、利用者の思いも含めて、聞き取り職員会議等を通じて運営に反映させる。家族会での意見交換や適時アンケートの実施により意見の聴集を図っている。	家族会での意見や面会時に話し合える場所設定をしたり、利用者と個別に話す時間をもつ等希望を聞いている。家族からの些細な要望であっても、すぐ実践し、遠慮なく意見が言える環境作りをして、運営へ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や介護会議の時に意見や提案を聞き、提案を活かせる方法を検討している。人事考課の取り組みと共に管理者と職員が1対1で話す機会を設けている。	管理者は、職員会議の外、日常的に意見を聞いている。普段発生する様々な事柄は、現場職員の裁量で決め、速やかに実践されている。また、人員体制について職員から提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で諸規定の見直しにより意欲を持って取り組んでいただける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を盛り込み、会議の場で伝える事で一人一人のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループ事業所の協議会に参加したり、外部研修等を通じて交流の場を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時点で本人と会う機会を設け、話を傾聴し安心してもらえる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とよく話をし求めているものを理解し、事業所がどう係れるかを事前に話し合っ て納得の上でご利用いただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスに繋げる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の支援を行っており、本人の思いを傾聴し深く知ることにより、職員間での共有に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の連絡や家族会等で家族の不安や困っていることを聞き、一緒に考え、アドバイスをしたり安心出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔行った場所や馴染みの場所への外出等家族の協力を得ながら、実現出来る様努めている。又、昔の知人等の面会もすすめ、会える様支援している。	利用者の入居前の会社を訪ね、職場の知人と面会の機会を作ったり、馴染みの場所へ職員と一緒に出かけいる。家族等と話したい時は、連絡を取りやすい時間帯に電話をかけて、安心と関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日その時の気分で変わるが、集団での行動参加や個別での対応を行いつつ、共に参加し楽しめる関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の情報提供や家族等からの挨拶や会話時には近況を伺い、相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に話を聞く際、夜間や入浴等一人になると普段話さないことを話されることもある。思いを傾聴し把握出来るよう努めている。	一人ひとりの今迄の環境や性格、その日の変化に注意を払い、声かけ等工夫して多くの情報を得て、意向の把握に努めている。また、把握が困難な場合でも、ちょっとした言葉を聞き逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々交流をしていく中で利用者や家族から話を聞き、把握に努めている。思い出したこともその都度聞き、記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中から全体を読み取る様に努め、出来る事を主に情報交換、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人や家族のニーズを聞き、職員間で検討し、わかりやすい表現でケアプランに反映させるようにしている。ADLや体調の変化により都度対応している。	計画は、本人や家族に分かりやすく説明し、家族には希望を書き足してもらおう等、意見を取り入れている。入院時は、状態に応じた退院後の計画作成の為、面会等予め状況把握をして家族に同意を得られるようしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日常生活や健康状態等日々の記録を記入している。また情報の共有の為、引継ぎノートに記載することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している	周辺の地域資源を家族を巻き込んで適宜活用し、豊かな生活が送れる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診やかかりつけ医への受診往診で対応している。緊急時や家族の付添いが困難な場合は、家族と連絡を取りつつ職員が付き添っている。	協力医の定期的な往診の外、かかりつけ医の受診支援や往診が継続出来るようにしている。医師への病状や受診後の家族への報告等速やかに伝えている。口腔ケアに力を入れ訪問歯科診療も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は在籍していないが、かかりつけ医の看護師との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療出来るように、又、出来るだけ早期に退院出来るように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人への支援情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には事業所として対応の限界を話し、理解を求めている。変化のあった場合は、その都度検討し、家族と共に方針を統一出来るよう支援する。	入居時に、具体的に(車椅子から移乗しての入浴が出来る迄)、重度化の限界を家族に説明し理解を得ている。状態に変化のあった時には、その都度、医師から家族に説明の上、職員と話し合いながら、重度化に向けての方針を共有し支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講し、全ての職員が対応出来るよう機会を設けている。夜勤時の緊急対応マニュアルを整備し、周知徹底に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難出来る方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	岐阜市中消防署の指導のもと夜間想定も含む年2回の避難訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加し情報を得ている。地域住民へ見学、参加も呼びかけている。(運営推進会議や掲示板等)	訓練時には地域住民の協力があり、立地状況から水害時の迅速な情報提供が得られる方法を市役所へ働き掛けている。ケアハウスと一緒に年2回行っているが、事業所単独での訓練は実施されていない。	災害の状況により、事業所単独での避難が必要な時もあると思われる。今後、夜間や職員の非常招集等、実践に向けた想定で訓練し、問題点を把握して災害に備えて欲しい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段や会議の中でも、人生の先輩として尊重した声かけへの話し合いをし、職員一人ひとりが自分の家族の立場に立って対応出来るよう心がけている。	苗字での呼びかけや、自分で出来ることは職員は手を出さずに傍で見守る等、会議で話し合っている。着替えの服を選択してもらう等、利用者の自主性を大切にし、人格の尊重をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定出来るように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるのではなく選択肢を提案し、一人ひとりの利用者が自分で決められる様手助けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそその一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重して個別性のある支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している	個々の生活習慣や季節に合わせた身だしなみの支援をしたり、月に1度、移動美容院の利用をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことの出来る支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな料理や得意料理を聞いたり、下ごしらえや片付け等も出来る限り共に行い、出来ることを取り入れながら楽しめる様配慮している。昔やったことのある季節の物を一緒に手作りしている。	利用者と一緒に買い物に行ったり、頂き物や冷蔵庫の食材を活用して、話し合いながら献立を決めている。下ごしらえ・味付け・盛り付け・後片付け等、職員は利用者の力を活かしながら、毎食作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保出来るよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や食事・水分摂取量の記入を行い確認している。一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。かかりつけ医との確認も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせ、口腔ケアの声かけ、介助し清潔を保つ様心掛けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、一人ひとりの状況に合わせた支援をしている。出来る動作は自分でしてもらえよう見守りのもと行ってもらう。	オムツの使用者はなく、全員トイレで排泄をしている。夜間は、さりげない声掛けにとどめたり、男性には立位での排泄が継続出来るように後ろで支え、個人の習慣を尊重し力を活かして、自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけでなく食事や飲み物、散歩等も含め予防に取り組んでいる。薬を飲まないといけない人もいるため、状況に応じて服用の援助をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことが出来る支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の要望や安眠やリラックス出来る夕方から夜間にかけての入浴を支援している。（入浴を嫌がる方にも週3回の入浴をして頂けるよう促す。）	夕食以降の家庭に近い環境下での入浴を支援する為、担当の職員配置をしている。希望により同性介助の入浴も支援している。浴室入り口ののれんや季節により菖蒲湯、柚子湯等楽しめるよう雰囲気にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。一人ひとりの体調や希望等を考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更に関しては全職員への徹底に努めている。また状態観察・記録を行い、主治医との連絡を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で出来る事の中から洗濯や掃除、食事の準備の手伝いをお願いしている。また近くの神社への参拝等の気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や本人の体調に合わせ、個別又は他の利用者と共に戸外に出かけている。又、家族にも協力を促し馴染みの場所へ外出をお願いしたり、ボランティアにも協力を得て外出している。	ボランティアの支援を得て、月に1回全員でドライブに出かけ、外食を楽しんでいる。福祉バスを手配し家族と一緒に食事等、外出の機会は多くある。また、外出先は利用者の希望を聞き決めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援をしている	電話については希望時対応し、手紙についても郵便物は本人に渡したり、家族と連絡をとりながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的と一緒に生け花を生け、季節感を感じていただいたり、フロアの展示物や家具の配置等定期的に見直しをしている。	利用者と一緒に居室やホール、玄関先の掃除をして、日常の家庭生活を感じられる工夫をしている。車椅子利用の妨げにならないよう物の配置を考慮したり、季節に合わせた飾りや夏日を遮るヨシズを立てかる等工夫を凝らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下等にもソファや椅子、テーブルを置き各々がくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物で使いやすい物品を持参して頂いて利用者の居心地の良さに配慮している。	自宅で使用していた筆筒や椅子、のれん、時計、鏡台に化粧品、アルバム、聖書等馴染みの品が置いてある。利用者の思い思いの物が持ち込むことが出来、安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「出来ること」「わかること」を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有部分に対して、シルバーカーや車椅子利用者にもゆとりのある空間に心掛けています。トイレや風呂、居室の名前の表記を大きくし、遠くからでもわかるようにしています。		